

第 1 章 都市の現況と動向

1 - 1 立地条件と自然環境

狛江市は、多摩丘陵の南東端に位置する、新宿から電車で約 20 分の交通の利便性の高い都市です。

市としては、全国で2番目に小さい面積ながら、多くの人が住む「住宅都市」として発展しています。

地形はほぼ平坦で緩やかに多摩川に向かって傾斜しており、多摩川・野川や農地、樹林地などが見られ、自然環境に恵まれています。



図 狛江市の位置

1 - 2 人口・世帯構造

狛江市の人口・世帯数は、高度成長期まで急増した後は、微増傾向が続いており、近年はほぼ横ばいの状況にあります。

しかし、人口は近い将来（平成25年頃）にピークを迎え、その後は緩やかに減少に向かうこと、また、現在は年齢階層別の人口の変化が少ない狛江市においても、少子高齢化が進行していくことが推計されています。これらは、まちづくりを進めるうえで、留意すべき極めて重要な点であるといえます。

一方、核家族化や単身化の進行などにより、平均世帯あたり人員が一貫して減少傾向にあり、2人/世帯程度まで低下していますが、世帯数については、将来的にも増加を続けることが推計されています。

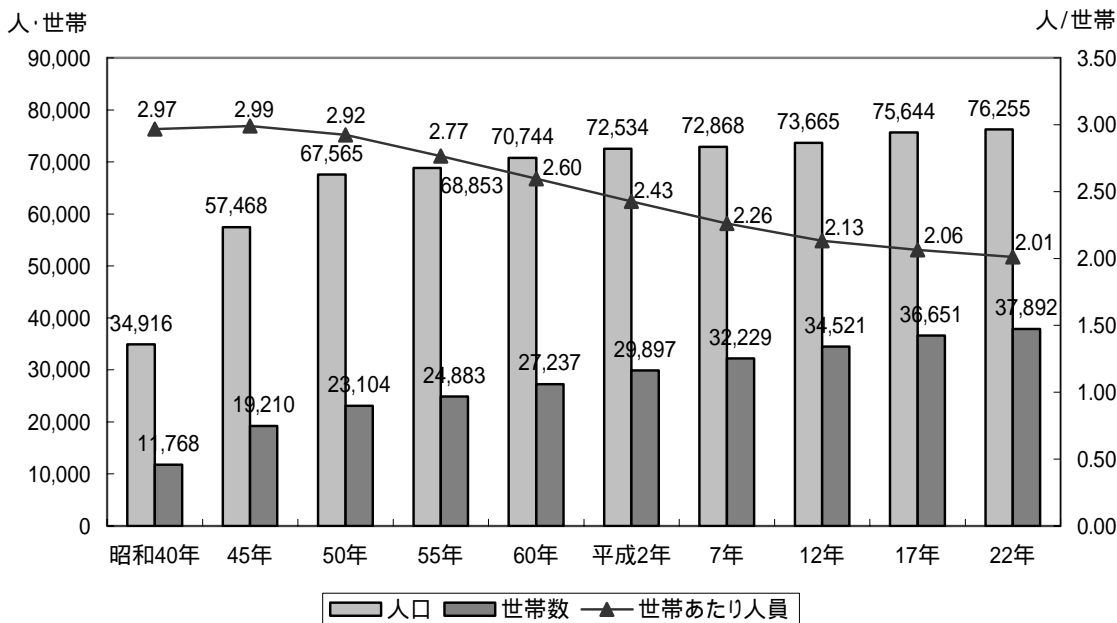


図 近年の狛江市の人口・世帯数の推移

* 資料：「住民基本台帳」による。各年1月1日現在

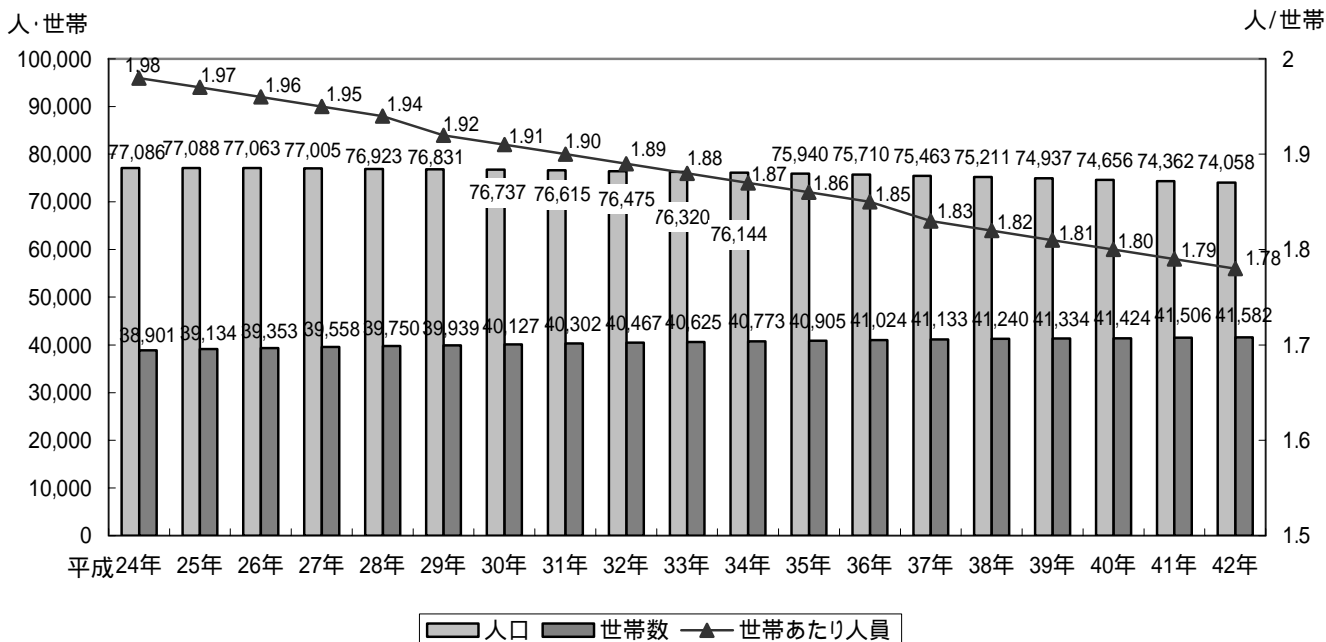


図 狛江市の将来人口・世帯数の推計

* 狛江市総合基本計画（第3次基本構想・基本計画）策定時の推計調査による。

1 - 3 産業構造

事業所数・従業者数ともに、ほぼ横ばいで推移していますが、減少傾向にあることが推測・懸念されます。

産業3分類別では、第3次産業（サービス業）の事業者・従業者がともに8割程度を占めています。

事業所数・従業者数

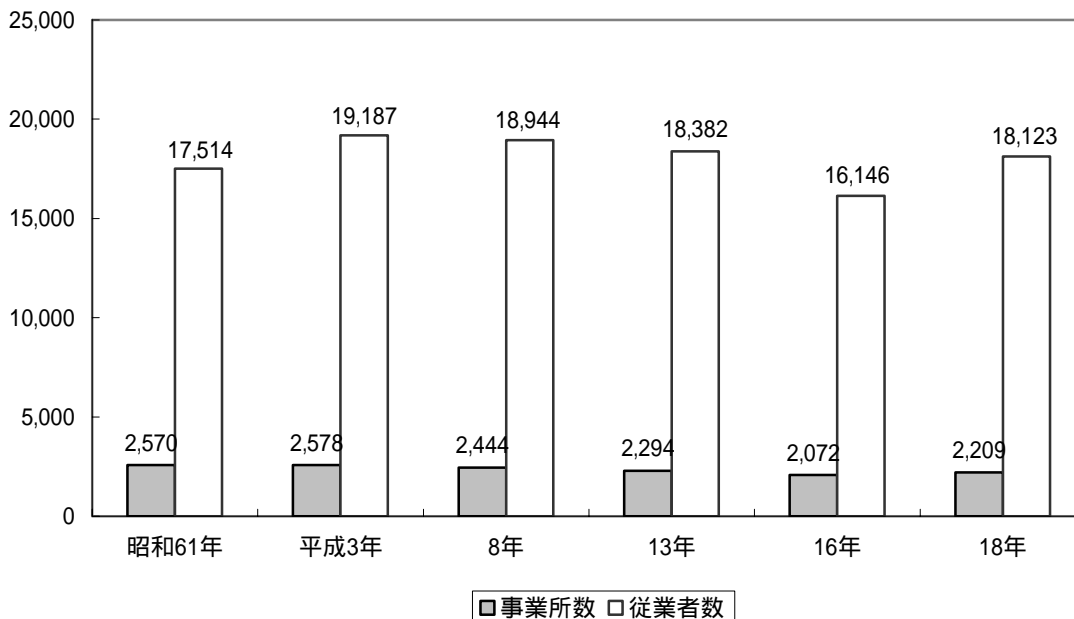


図 事業所数・従業者数の推移

* 資料：「事業所・企業統計調査」

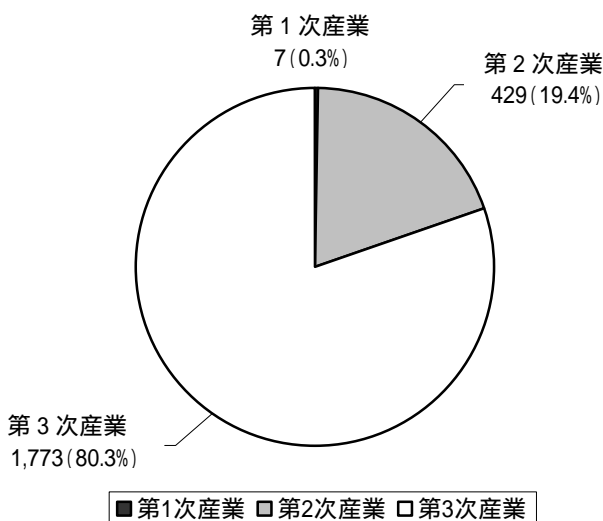


図 事業所数分類

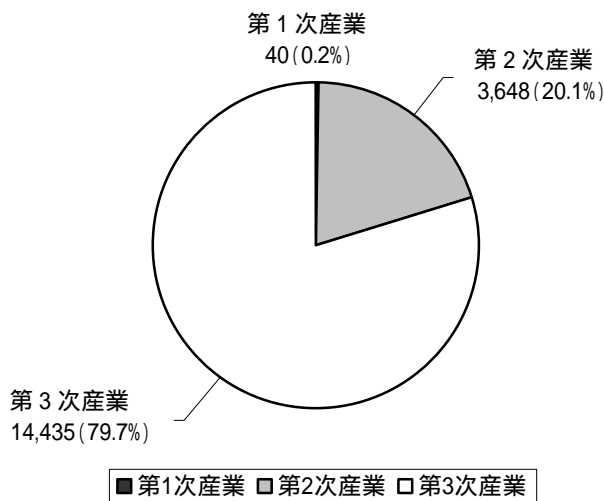


図 従業者数分類 単位：人

* 資料：「事業所・企業統計調査（平成18年の値）」

1 - 4 土地建物利用

住宅、特に一戸建て住宅を中心とした土地利用となっています。

旧計画の策定（平成13年）以後、大きな変化は見られませんが、農用地や工場の宅地化などにより、住宅地が増えており、特に集合住宅が増加しています。また、学校の統廃合や工場の移転などによる大規模な土地利用の転換も生じています。

平均階数は2.0階で、近年はあまり変化していません。また、建築物の不燃化が徐々に進み、不燃化率は3分の1を超えています。（「東京の土地利用（平成19年多摩・島しょ地域）」による。）

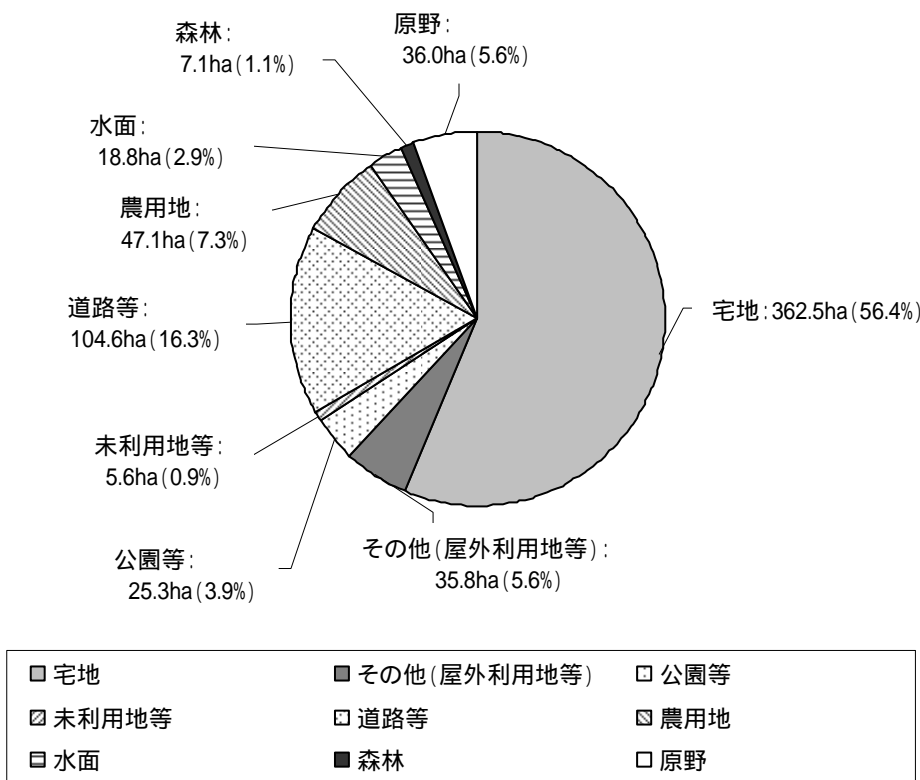


図 土地利用面積の構成

* 資料：「東京の土地利用（平成19年多摩・島しょ地域）」

表 土地利用面積の推移

区分	平成13年（旧計画策定時）	平成22年
宅地：商業地区	18.70	17.50
宅地：工業地区	9.97	9.91
宅地：住宅地区	282.83	298.95
畑	56.25	45.55
山林	1.48	1.23

* 1月1日現在 単位：ha

* 資料：「統計こまえ（平成22年度版）」

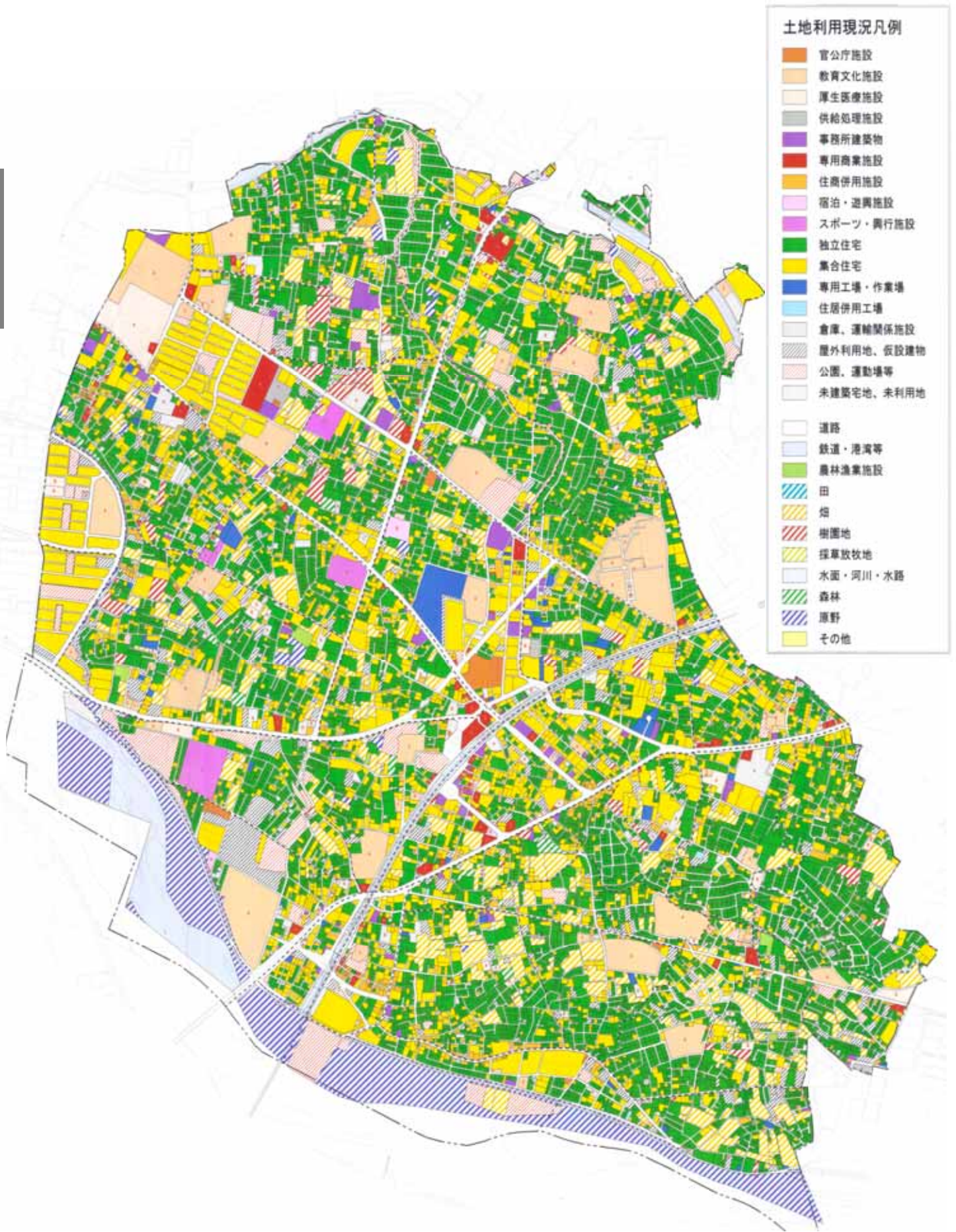


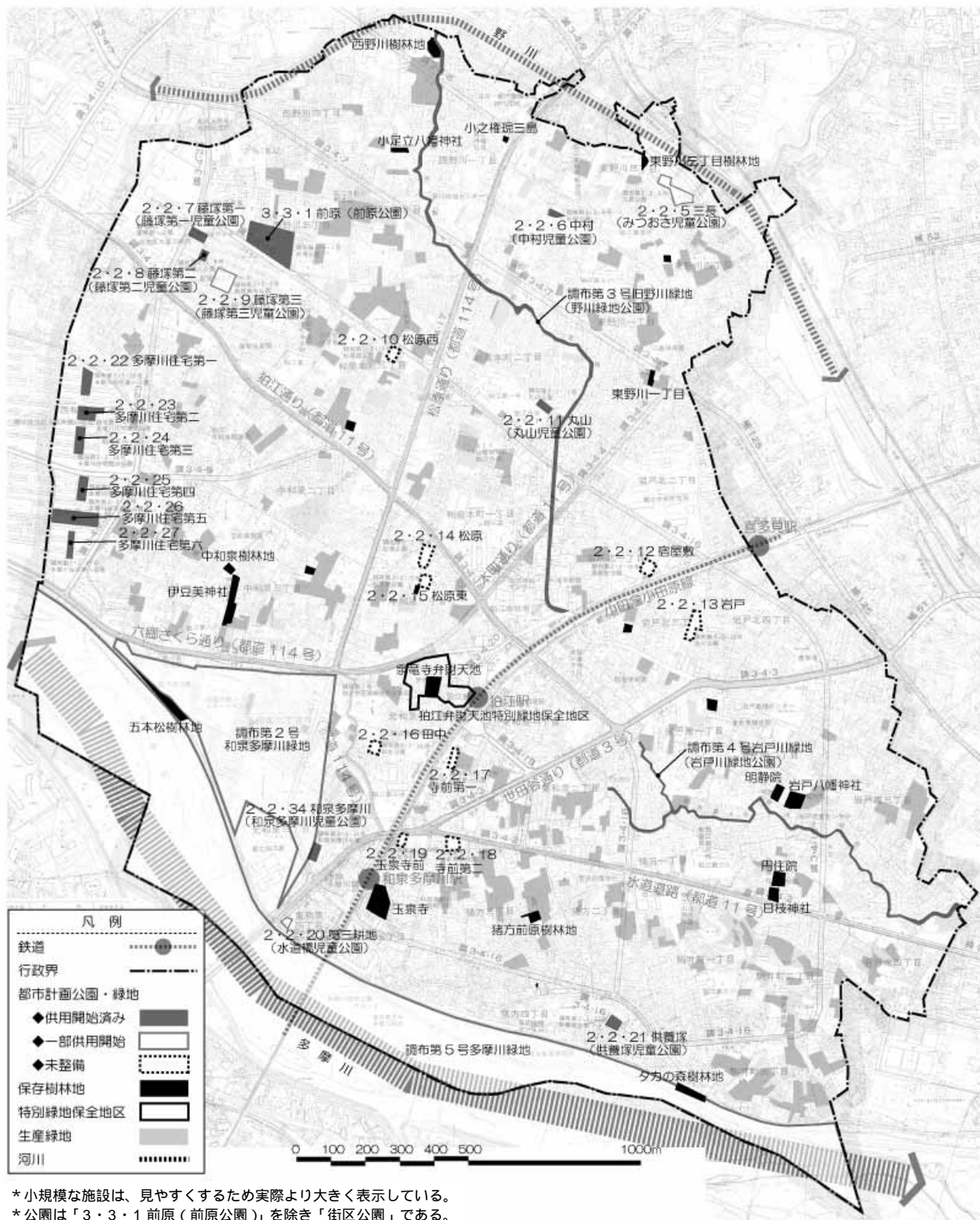
図 土地利用の現況

* 出典：「平成 19 年度土地利用現況調査」

1 - 5 公園緑地

都市計画公園については、平成 17 年に前原公園が開園し、25 箇所のうち全面供用が 13 箇所、一部供用が 3 箇所、未整備が 9 箇所となっています。

緑被率については、平成 9 年の 26.75%が平成 22 年には 26.05%に、また一人あたりの公園面積は、平成 9 年の 1.47 m²/人が平成 22 年には 1.36 m²/人と旧計画策定時と比較してそれぞれ減少しています。



* 小規模な施設は、見やすくするため実際より大きく表示している。
* 公園は「3・3・1 前原 (前原公園)」を除き「街区公園」である。

図 都市計画公園・緑地の整備状況

* 平成 24 年 2 月現在

1 - 6 道路・交通網

都市計画道路については、旧計画を策定した平成13年以降、「調3・4・17(松原通り)」の一部区間や「調3・4・3(世田谷通り)」などの整備が完了するなど、中軸となる路線の整備が一定程度進捗をみせ、整備進捗率は、5%以上上昇しています。

一方、生活道路網は全体的に整備が遅れています。狭あい道路が中心で行き止まり箇所も多く、一部の地区を除いて、有機的なネットワークを構成するには至っていない現状にあります。

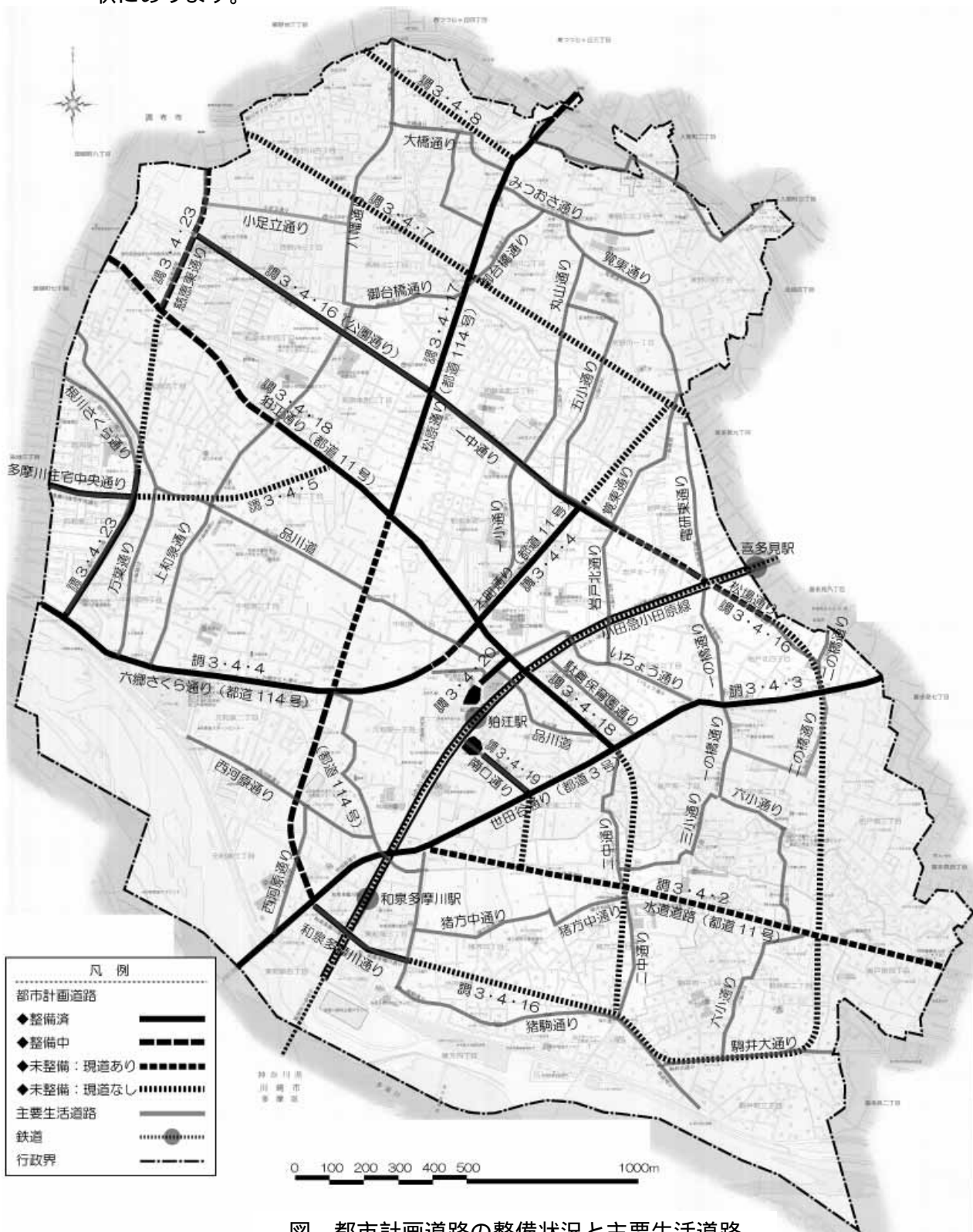


図 都市計画道路の整備状況と主要生活道路

*平成24年2月現在

交通分野においては、平成20年にコミュニティバスである「こまバス」の運行を開始し、公共交通不便地域が大幅に減少し、公共交通の利便性が向上しています。

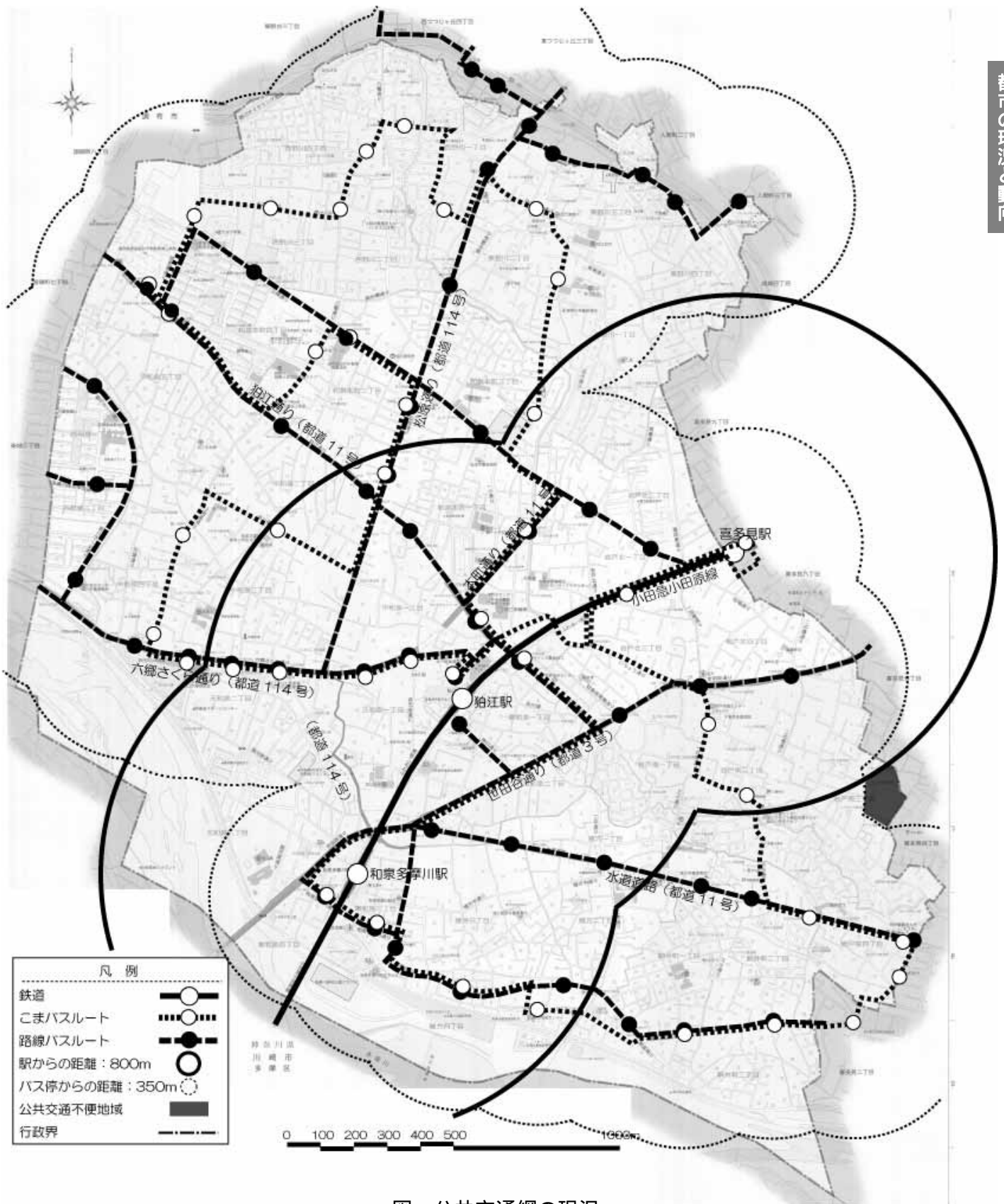


図 公共交通網の現況

*平成24年2月現在

1 - 7 公共公益施設

コミュニティ施設、教育施設など各種施設が、以下のとおり分布しています。
この10年間に、統廃合に伴う和泉小学校及び緑野小学校の開校、谷戸橋地区センターの整備といった動きが見られました。

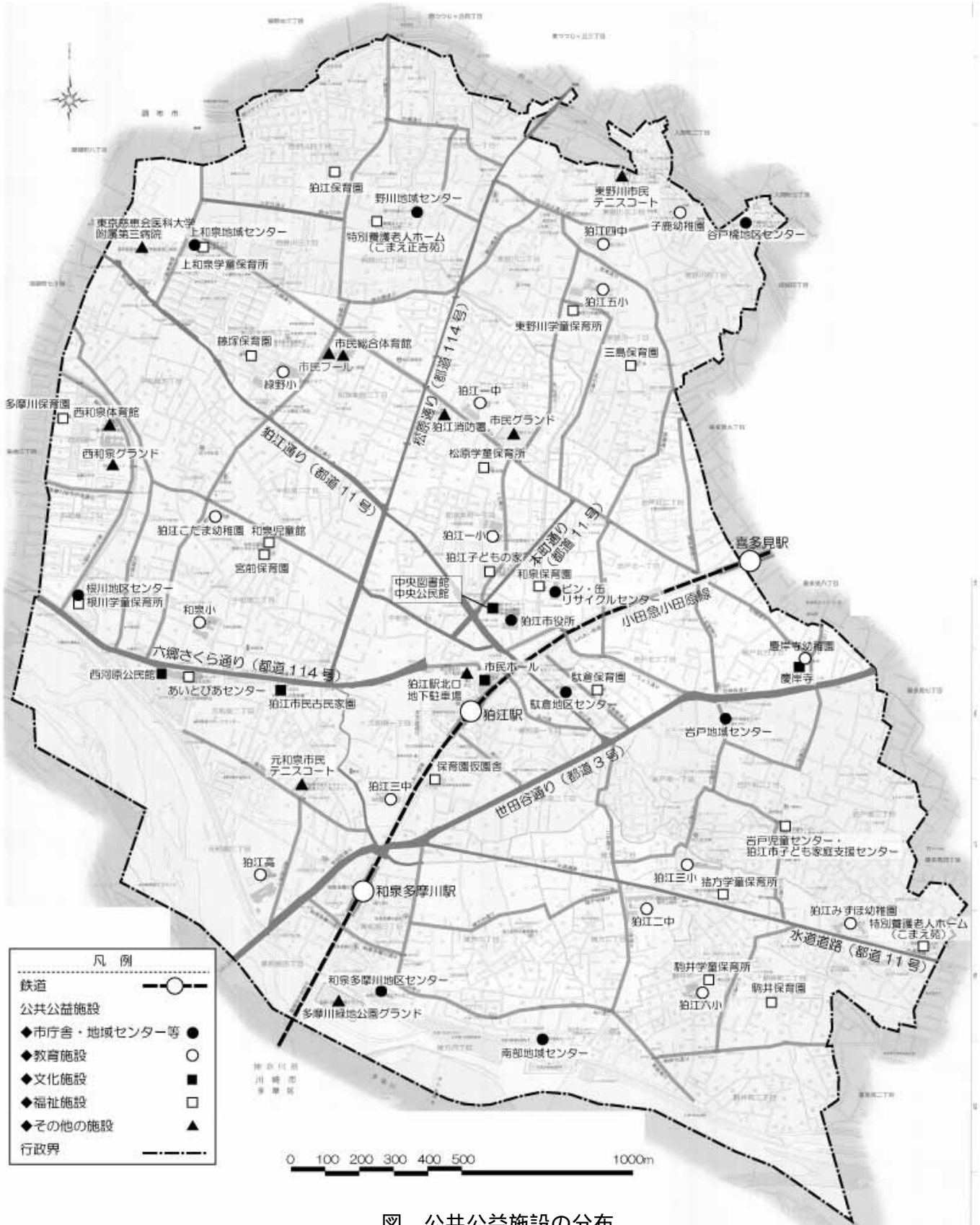


図 公共公益施設の分布

*平成24年2月現在